

想満洲

大野 正夫

平原如海奄高粱
鐵路悠々萬里長
大地景觀在眸裏
緬想亡国對斜陽



満洲を想う

大野正翔

平原 海の如く 高粱に 奄われ

鐵路は 悠悠 万里 長し

大地の 景觀 眸裏に 在り

緬に 亡国を 思うて 斜陽に 対す

【解釈】

満洲の平原は、見渡す限り高粱の畑ばかりで、まるで海のようにみえます。鉄道は、いったいどこまで行くのか、遠く遙かなたまで続いています。その広々としている大地の景觀は今でもはつきりと瞳の奥に残っています。夕陽のなかで、今は亡き国、遠い満洲のことを思い出しています。